

困ったときはお互い様♪

困窮されている方への 個別自転車配達の食料支援

2022/04/10

反貧困ネットワーク全国集会2022

高阪 由紀江(練馬あったかフードバンク)

練馬区とは...

- 人口 約 73万8千人
- 平均所得 418万9126円 全国37位/1741
市区町村、東京都22位/62市区町村
- 区内各地でさまざまな団体やこども食堂がフードバンクを実施
- 22年大晦日には団体横断のお弁当配布も

練馬あったかフードバンク①

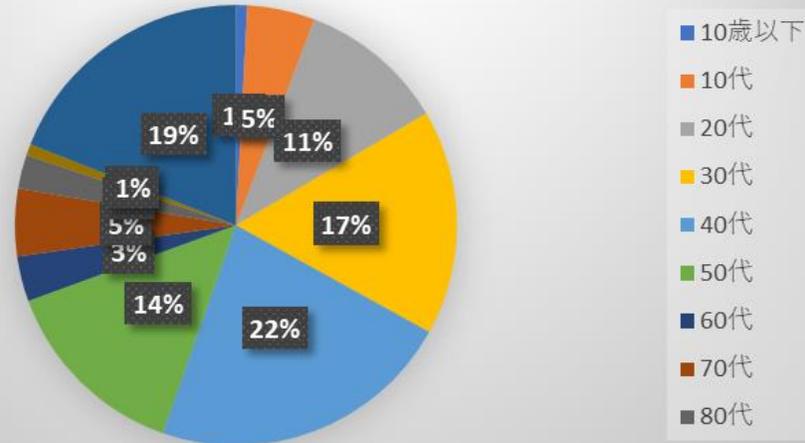
- ・ 2020年12月13日に第1回～2022年2月23日第9回開催／次回は4月23日予定
場所は駅前、公園、路上、そしてここ5回は東京土建練馬支部会館を借用
- ・ 提供品は食料のほか日用品、生理用品、紙おむつ、最近ではリサイクル衣類も。「選べる」コーナーは必須。
- ・ 弁護士、社労士、保健師、保育士、議員、運動団体職員の無料相談コーナーも併設
- ・ コロナが落ち着いているときは整体、鍼灸も。「カフェ」も大好評
- ・ 見学者には担当が付いてご説明と案内
- ★ フードバンク開催を待てない方や体力ない方への個別配達（2021年4月末スタート）
- ★ 第5波、第6波でのコロナ陽性自宅待機者およびワクチン副反応の方への配達（置き配）
↳ 個別配達およびコロナ配達は21年4月～22年4月でのべ160軒
- ・ ゲリラフードバンク（パウンドケーキ、ミカン）もおこなってアウトリーチ
- ・ 12月24日にはクリスマスプレゼント30軒に配達
- ・ 資金はほぼすべてカンパと善意の提供品（一部、農水省、社協や生協等からの提供あり）

練馬あったかフードバンク②

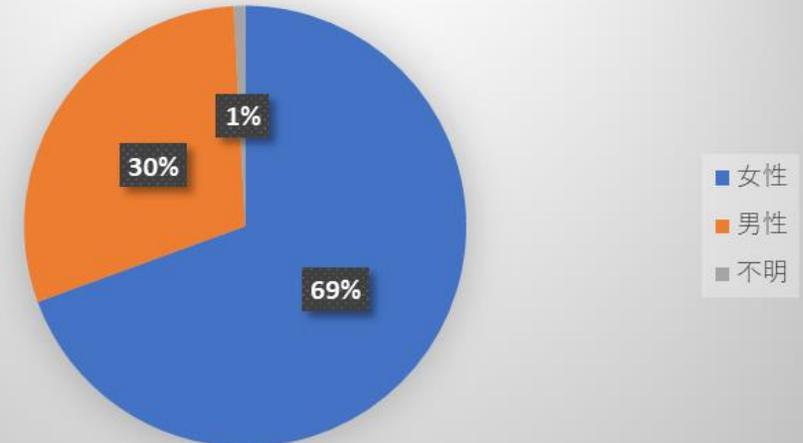
- ・利用者さん（通常のフードバンク時）の特徴

老若男女ではあるが50歳未満が55%、女性が7割。高校生が毎回家族分も取りに来る。

年齢別 = 50歳未満が55%



性別 = 7割が女性



練馬あったかフードバンク ③

- ・なぜ女性利用者が多いのか
 - ★住宅街
 - ★紙おむつや生理用品
 - ★明るくかわいい
コンテンツ
 - ★スタッフは女性が多い

練馬あったかフードバンク

第7回  勤労感謝の日

11/23 火 **完全予約制**

午後2時～3時 *特別のご希望がある方は11～12時

東京土建練馬支部会館1階駐車場

練馬区中村北1-6-2
練馬駅南口徒歩10分

西武池袋線 練馬駅 南口
都税事務所 千川通り
区役所 目白通り
ファミリーマート

予約連絡先   Twitter DM  nerimafoodbank@gmail.com

練馬あったかフードバンク④

- ・ スタッフは多くが女性。若い男性も可。
- ・ 利用者の女性は、虐待、DV、性被害、セクハラ・パワハラ被害者も少なくないので男性への抵抗感がある人も。
- ・ 「施す」ではなく、「困ったときはお互い様」。「迷惑かけて申し訳ありません」という女性、勇気を出して連絡してきたという人たちが安心して利用できるように心がけている。
- ・ 「自宅への配達」は女性スタッフということで信頼される。
- ・ 告知はおもにツイッター
 - ※ツイッターは困窮者支援に必須。なぜなら懸賞があるから
- ・ チラシも1万枚程度

利用者さんの概要

- 支援団体にSOSを出すよりは少しましな状況の方たち（住まいは何とかあるが大変困窮している）が利用している。
- **コロナで生活が激変した人たち**。毛皮のマフラーをしながら、紙おむつを手に涙ぐむ。家を買ったばかりの若いファミリーが、妻がパート収入激減し住宅ローンがきつい。ちょっとした支えがあれば何とかなる人も少なくない。
- **これまでも困窮していた人たち**。生活保護、年金受給者、シングルマザー、障害者、病気を抱えた人がいる家族など。いままでどうしていたのだろう…。
- フードバンクに来られる人は「めぐまれている」ほう。来られない人たちからのSOSに応える重要性を痛感。
- シングル女性、若年男女を支える制度がない。

「え？こんなものがない?!」

- ・ 布団
- ・ ドライヤー
- ・ お米よりパックご飯？
- ・ パン屋のパン

★食べ物が足りないということは他のものも足りていないということ

SOSに応じて個別配達

- 連絡はツイッターのDMとメール。
- なるべく早く最初のお返事をする。
- 通常のフードバンク利用者が困窮して連絡してくるケースも多い。
- スタッフのLINEグループに「◎◎町の方、〇〇が必要とのこと。今日中に行かれる方はいますか？」などと投げかける。
- 自炊するか、アレルギーがあるか、など基本的な要望を聞く。
- これまで提供していただいているストックも活用するが、緊急の場合が多いので、お届けスタッフが近くのスーパーなどで購入することが多い。個別の要望に徹底して応える（たとえば「果物グミ」「パクチー」「がっつり弁当」「桃屋の食べるラー油」「おむつ状の生理用ナプキン」）。
- 要望の上をいくもの（量多め、お菓子、パン屋のパン、果物など）。

利用者さんの状況 1

以下、プライバシーに配慮し、事実をもとに構成しています。

40代のA子さん。家族とは断絶、東京で一人暮らし。コロナ前はトリプルワークでそこそこ収入があったが、コロナで激減。

生活に困り、未承認薬の治験に応募をくりかえす。高額の謝礼があるが、体へのダメージ大きく、事前審査で落ちるようになり、いよいよ困窮し、連絡してきた。

「このまま死ぬかなと思っていたが、ダメ元と思って連絡したらすぐに返事をくれて助かった。もう少し生きてみようと思うようになった」。現在は生活保護を申請し、一息ついた。

利用者さんの状況 2

20代の女性B子さん。コロナで職を失い、メンタルを病む。親にはまったく頼れない。

給付金を受けながら職業訓練を受けたが、体調が悪くて欠席することが多く、離脱。

連絡をくれたときは一週間布団にくるまっていた。「死のうとは思わなけど、このまま消えてしまったら楽だろうな」と。

食料提供をし、無料低額診療の病院を教えて受診、「扶養照会があるから絶対いやだ」と言っていた生活保護も、議員が同行して、照会は無いまま保護決定。

劣悪なシェアハウスからアパートに転宅し、ひと安心。ITの会社に勤めたいと、自分で勉強を始める。

利用者さんの状況 3

身寄りのない若い女性C子さん。病気もあり生活保護利用者。しかし借金返済もあるため、保護費では足りず、あるときお金の困ってネットで詐欺集団の募集に応じて詐欺の手助けをしてしまう。多額の罰金刑が確定。

罰金など払えるはずもなく…。

もっと早く知り合っていたら…。

利用者さんの状況 4

20代男性。すでに両親もない。高校中退後、アルバイトなどで働き、やっと正社員になった飲食店がコロナで閉店。不払い賃金をたくさん抱えたまま放り出される。労基署に行ったがどうしようもないと言われ、生活保護申請。

保護費では足りないため、ときどきフードバンク利用。

メンタル不調で治療に専念中。

個別配達した利用者さんの声

- 練馬区に越してきたばかり。夫婦で地方出身で知り合いも身内もいない中で、ほんとうに助かりました。練馬に来てよかった。
- にこにこしてお優しく、なんだか安心して涙が出そうでした。
- 母子家庭で、以前住んでいた自治体では子ども食堂とつながっていましたが、練馬区の事情がわからずにいました。つながれて安心しました。
- 自宅療養者に東京都から届く食料はおとな向け。赤ちゃんの離乳食やミルクがなかったのでとても助かりました。
- 人に甘えることが苦手でSOSを出せなかったけれど、思い切って連絡して助けてもらったことで、人に頼ってよいのだと思った。

個別配達の意味、私たちが学んだこと

- ほんとうに困ったときは、生身の人間が助けに来てくれるという安心感。
- 地域に助け合いのネットワークがあることの安心感。
- 困窮は自己責任だと思っていたが、思い切ってSOSを出してみたら助けてくれる人がいた。

-
- 連絡のやりとりの中で、また「配達」で、その人の生活が垣間見える。困窮する人たちのリアルな実態を知ることができた。
 - 家族に助けてもらえない人の多さ、地域でのつながりの薄さ、労働の厳しさ…。非正規、不安定な雇用の中で生きるしんどさ。
 - 「もっとがんばれ」「死ぬ気になれば仕事はある」といった言葉の残酷さ。

利用者の声、つぶやきに耳を傾け、心を寄せる

- ・「ふりかけください」 50代女性、母を介護中の派遣労働者
 - ・「食べ物めぐんでもらえますか」 30代シングルマザー
 - ・「迷惑かけてごめんなさい」 30代シングルマザー
 - ・「もっと困った人を優先してあげてください」 多くの利用者
 - ・「所持金が400円になりました」 20代男性
 - ・「4日間何も食べていません」 30代男性
 - ・「福祉事務所に傷つけられる。なるべくかかわりたくない」 多くの生活保護利用者
 - ・「生活保護というだけで下に見られる。ほかの人への対応と明らかに違う」 40代女性
- 自己責任論を乗り越え、人間の尊厳を取り戻せるよう、ほんのわずかだが力になりたい

行政等の対応は...

- 練馬区は、事もあるうか、困窮者からの電話に練馬あったかフードバンクを紹介した。
- 生活保護の申請者を2週間待たせる。コロナ感染中でも「取りに來い」。
- 議会への陳情は継続審議で塩漬け。「塩漬け議会」
- 区長は「5階の窓から」見てるだけ。区長候補の吉田健一さんが視察後公約に入れ、各所で「命がけで困窮者支援をおこなう」と。
- 東京都はHPに「生活保護の申請は国民の権利」と明記されたが、当初から協力してくれている、とや英津子都議の追及で。
- 農水省から「食育」のためのお米の提供を受けた（3月。2022年度も予定）。地元から小選挙区で当選した山岸一生衆院議員からのアドバイス。

必要な社会のしくみ

～フードバンクの現場から感じること～

- ・ 鉄壁の住宅保障。どんなことがあっても住まいを失わない制度。
「家賃とスマホ代を払ったら手持ち金がなくなる」事態の解消。
- ・ 「自立」を強要しない生活支援制度。働くことをゴールにしない。
多彩なメニューを。
- ・ 心かよう福祉行政。困窮は自己責任ではないという認識を職員が持つ教育と研修
- ・ 「公助」ではない、「社会保障」の拡充。
- ・ 地域社会との適切な交流

次回は4月23日です。
よろしくお願いいたします。



おわり